

古典文法トレーニング 長文課題 品詞分解と現代語訳

大問八（出典：『しみのすみか物語』）

◎品詞分解（名詞は基本的に非表示。非活用語は基本的に初出のみ。）

田舎渡らひとて絹商ふ商人、日暮れぬれば、ある家の戸を叩きて「宿借りなむ。」と言へば、受けて、開けて入れけり。主の妻は、おそろしき心持ちたる者にて、この旅人の包みの重りかなるを見えて、「いかでこの包みを忘れて行けかし、わがものにしてむ」と思ひて、主にささやき言へば、「茗荷を食ひたる人は、心呆けてもの忘れするものなり。」と言ふを聞きて、合はせの實の皆茗荷を入れて食はせつ。さて商人は、明け暮れの空に起き出でて、立ちて行きぬ。妻は旅人の忘れたるもの見むと、寝たる所に入りて見れば、つやつやもの一つなし。「食はせつる茗荷はしるしなかりけり。」と言へば、主、「否、茗荷こそしるしありけれ。いみじきもの忘れて行きぬ。」と言ふ。妻、「何を忘れたる。」と問へば、「我に与ふべき借り手の錢、忘れて去にけり。」と言へば、妻、「げにげに。」と言ひて、いよいよ腹立ちけり。

◎現代語訳（↓『ステップアップノート30 古典文法トレーニング』参照）